

第65回大沢地区まちづくり会議結果

日 時：令和2年8月25日（火）午後7時00分～午後8時45分

場 所：大沢公民館 大会議室

出席者：15名（6名欠席）

傍聴者：0名

1 開 会 大貫勲副代表

2 あいさつ 佐藤代表
中島緑区長

※出席者自己紹介（市職員を含む。）

3 議 題

(1) 「未来へつなぐ さがみはらプラン～相模原市総合計画～」について

令和2年3月策定の相模原市総合計画について、緑区区政策課安藤課長及び同課担当職員から概要版の作成経緯及び緑区基本計画の概要に関する説明があった。

○平成30年度中に、緑区内の各まちづくり会議を訪ねて、総合計画の基本計画及び実施計画並びに都市マスタープランに掲げる計画をご説明し、地区の課題や対応方策について検討していただいた。大沢地区では道路交通と安全・安心を重点目標とし、緑区の区民会議にかけて計画書を作成した。

○緑区の目指す姿を『実る緑区』と銘打って、大きく3つの視点（「多様性を生かした交流のまちづくり」、「住み続けたいまちづくり」及び「つながりと将来性を生かしたにぎわいのあるまちづくり」）を基に進めていく。

○緑区特有の中山間地域の振興について、各施策分野に合わせて《創り合うつながり合うまちづくり》、《育て合う学び合うまちづくり》、《認め合う支え合うまちづくり》、《守り合う助け合うまちづくり》、《交流し高め合うまちづくり》及び《自然と共存し生かし合うまちづくり》の6つを取組目標とし、〈1. 豊かな人材を活用し、地域コミュニティの充実・強化に取り組む〉、〈2. 豊かなライフスタイルを提案し、移住を推進〉及び〈3. 豊かな環境を活用し、新たなビジネススタイルを推進〉の3点を施策展開の方向性として定め、具体的なまちづくりを進めていく。

○概要版は、市の行政資料コーナーでご提供しており、ホームページからもダウンロードができる。

○基本計画が策定できたので、今後は、実施計画の策定を行う。

以下、質疑応答。(◇は委員からの意見・質問、◆は緑区役所からの回答。)

◇コロナ感染症が蔓延する中で、今後の予算的な対応は大丈夫なのか心配している。区長の裁量で執行できる予算はあるのか。

◆今回のような事態は、国、県、もちろん市も初めてのことで、いずれも対応に苦慮している。今年度は、コロナ感染症の関係で既に5回ほど補正予算を組み直し、当初予算額の1/3程度の額を補正している。定額補助制度等は、国から補助金として歳入があるものの、緑区では、各種施設の維持管理や有害鳥獣の駆除などが増えてきている。特に道路要望が多く、一部改良については、できる限り身近な緑区の事務所で対応できるようにという流れになってきた。この後、説明があると聞いているが、活性化事業補助金制度も区長裁量で対応できるよう市内部も調整されている。身近になった分、緊急的なものにはスピーディな対応が求められるため、各区の特性や状況に応じて、迅速な予算対応ができるよう全庁的に取り組んでいるのが現状。

◇市では、SDGsという世界水準の目標を取り入れ、施策を展開すると報道された。細かいことはよくわからないが、いろいろ取り組まれているようだが、折角なので様子を伺えればと思う。

◆SDGsとは、誰もが安全で安心して暮らせる社会の実現に向け、多様性と包摂性のある社会の実現のために設けられた国際目標を活用しようとするもの。本市がこれまで取り組んできたまちづくりは、SDGsの理念や目標と一致しており、今後のまちづくりにも寄与するもので、この関わり方を市民の皆様に関わりやすく示すため、基本計画において、各施策とSDGsの結びつきを記載している。市では今年から推進室を設けており、基本計画の基本的な方針の中にも、SDGsを踏まえた施策の推進を定めている。

◇少しわかりづらい内容ではあったが、相模原市が表彰されたという話を聞いた時には何だかうれしかった。

◇コロナ感染症の話が出たが、非常に厳しい状況であることに間違いない。今後、感染者が増え、それに伴い重症患者も一層増えてくるだろうが、果たしてこの状況を乗り切れるのか心配している。

◆コロナに関してはあくまでも対処療法ができただけで、これから予算を振り替えて、具体的な施策を実施していくことになる。いわゆる新しい生活様式を進めていくわけだが、安全に落ち着くまでには5～10年かかると考えている。経済の回復にも2～3年かかると言われている。コロナ感染症が完全に経済へ影響を及ぼさなくなるまで、皆さんの意見を聞きながら、施策に結び付けて行きたい。

※議題(1)については、以上。区長以下緑区の職員は退席。

(2) 地域活性化事業交付金の申請について

※毎年、活性化事業交付金の申請者を招いて、事業概要の説明を受けている。いずれも令和元年度に当初申請が提出されており、今回は昨年度の報告も兼ねて説明を受けることとした。

最初に、古清水歴史ガイド編纂委員会から、資料である地域活性化事業計画書を基に説明があった。

○事業実施の背景や地域の現状と課題

ここ数年、地域住民の自治会離れとともに、貴重な地域風土の理解度が薄れている。

○事業の目的

地域の特徴と良さを知ってもらうことができる冊子を作成して、地域の歴史・名所・旧跡等を伝承するとともに、イベントの開催によって、地域の温もりを体感し、地元愛を育むことを目的とする。

○事業内容

地域の言い伝え等を確認し、語り部となる人物・旧跡等の取材を行い、その内容を30頁程度のA5サイズの冊子にまとめ、地区内全500世帯のほか、周辺自治会や関係機関にも配布する。

以下、質疑応答。(◇は委員からの意見・質問、◆は申請者からの説明・回答。)

◆昨今の古清水自治会の状況は、子ども達が巣立って行くと地域とのつながりが薄れていく傾向にある。今回、言い伝えなどの語り部となる老人宅等を訪問したが、予想していた以上に物語があった。今年度は、コロナ感染症の関係で、皆が集まって会議を行うことができないため、会員それぞれが原稿案作りを行っている。また今後は、補足の取材を行う予定。

◇昨年度活動してみて、苦労話等があれば聞かせて欲しい。

◆苦労したという感覚はなく、むしろ取材することが楽しかった。自分の住む地域のこと、知らないことを教えてもらえたし、お年寄りとの交流が持てたことが良かった。

◇予算規模が5万円ということだが、具体的にはどのような活動を行うのか。

◆昨年度は12名に取材したが、今年度も8名程度を訪問する計画だが、ほとんどが消耗品と報償費として計上している。

◇映像に残す等は考えていないのか。

◆主に携行できる冊子を考えていたので、今後、検討したい。

※最後に、昨年度の活動風景写真を披露して説明及び報告を終えた。

続いて、2件目として、旧笹野家住宅を考える会から資料である地域活性化事業計画書を基に説明があった。

○事業実施の背景や地域の現状と課題

旧笹野家住宅は平成27年度に市に家屋と屋敷が寄贈され、主屋と長屋門は平成27年11月に国の登録文化財となった。市教育委員会の「旧笹野家住宅保存活用ワークショップ」を契機に、ボランティアとして清掃活動を行うとともに文化遺産の維持・継承と活用を図るため「旧笹野家住宅を考える会」を結成した。昨年度は屋内外の清掃や障子の張り替えなどを実施してきたが、引き続き屋内外の清掃と整備に加え、荒れた状態の竹藪の整備や価値が不明の襖の書画などを調査学習し、旧笹野家の魅力とポテンシャルを発信したい。

○事業の目的

国登録有形文化財「旧笹野家住宅主屋と長屋門」及び敷地内にある文化遺産と自然環境の保存と活用を図る事業を行うことにより、まちづくりに寄与することを目的とする。

○事業内容

- ・敷地及び建物の清掃、簡易補修及び竹藪の整備などを通じ、旧笹野家住宅の維持管理を行う。
- ・見学会やお茶会、ウォーキングなどの各種イベントを通じ、旧笹野家住宅に親しんでいただく。
- ・会報の発行など広報活動を通じ、旧笹野家住宅の保存と活用の意義と魅力を地域に発信する。

以下、質疑応答。(◇は委員からの意見・質問、◆は申請者からの説明・回答。)

◆市の文化財保護課とも調整をしながら事業を展開しているが、コロナ感染症の関係で、活動は自粛してきた。7月14日に今年初めての清掃活動を実施した。9月からは市と相談して活動を開始するが、今年は清掃だけでなく、ウォーキングや会報の作成を検討しており、市と相談して内覧会もできたら良いと思っている。

◇申請との兼ね合いもあるとは思いますが、予算はどの段階で作成したものか。

◆8月に入ってから申請したが、予算は7月に最終の調整を行った。内訳は障子紙や事務用品等の消耗品費と印刷製本費がほとんどを占めている。

◇自治会費他とあるが、これは何か。

◆考える会で地元の下九沢自治会に加入した。また、市の文化財研究協議会にも加入したので、それぞれ会費を計上した。

※最後に、昨年度の活動風景と旧笹野家住宅内の写真を披露して説明及び報告を終えた。

(3) その他

大島観光協会の代表である吉村委員から、同協会と大島・向原・小倉・葉山島地域観光振興推進協議会が、市とタイアップして作成した「相模川自然の村周辺案内図」に関する報告があった。

以下、質疑応答。(◇は委員からの意見・質問、◆は提案者からの説明・回答。)

◆大島観光協会では、市からキャンプ場の管理を委託されている。この度、市から助成金をいただいて、案内図を作成した。大沢地区の宣伝のために多方面で活用していただきたい。昨年度、市に相模川自然の村公園内の水辺のステージ近辺の改修をしてもらったが、今後も担当部署である公園課との調整等に活用していただきたい。

◇イメージキャラクターは、独自にお考えになったようだが。

◆観光協会と一緒にボランティアで活動してくれている相模女子大学の学生が、考案してくれた。頭が地域の自然を表す山で、お腹では清流をイメージした鮎が泳ぐなど、非常に愛嬌のあるキャラだと好評。是非、活用して欲しい。

※佐藤代表から、この他に意見を求めたが特に意見はなかった。

4 閉 会 大貫君夫副代表

以 上